

1 県民に開かれた図書館

県民の参加でつくる開かれた図書館とし、県民が必要とする資料・情報を利用できる機能と蔵書構成を整備します。また、生涯学習推進の拠点施設として、豊かな読書や学習・文化活動のできる環境を整備します。

基本指標：中期的なサービス指標とはしないが、長期的視点では重視する指標

I 来館者数	平成24～26年度実績平均：1,059,517人
II 個人貸出冊数	平成24～26年度実績平均：1,442,584冊
III 登録者数	平成26年度末累計：226,616人
登録率（人口100人当たり）	平成26年度末：11.8人
IV 来館者アンケート利用者満足度	平成26年度：93.3%

○資料・情報の提供

現状の成果と課題

①図書館の基本的な機能である資料・情報の提供を特に重視して、来館者サービスの向上に努めた結果、開館以降の毎年、来館者数100万人、個人貸出冊数100万冊を概ね超える都道府県立図書館トップの座を維持しています。サービス向上の一環として、館内整理日にあてていた第3木曜日の開館を開始しました。その反面、貸出資料の延滞、資料の破損行為等、利用者による迷惑行為が目立ってきています。

②障害者、高齢者、外国人等、通常の図書館利用の困難な人々にも、開かれた図書館となるよう努めました。障害者利用支援ボランティアと連携して、対面朗読サービスを提供しました。新規に、障害者サービスの対象を読書困難者に拡大し、録音図書及び録音図書再生機器の貸出しを開始しました。また、既設の大活字図書コーナーに隣接して、バリアフリーコーナーを新設しました。さらに、蔵書検索システムの多言語化を行い、外国語資料の利用促進を図りました。今後とも、サービスを不断に見直しながら、利用環境を誰にでも使いやすくする必要があります。

③全県域サービスの視点から、岡山県立図書館以外の図書館での予約資料の受け取りを可能にするインターネット予約サービスや、県内図書館で借りた資料を借りた図書館とは別の図書館に返却できる資料相互返却サービス等を推進しました。新規に、県内公共図書館等の一部に、岡山県立図書館の登録窓口を開設し、遠隔地利用の利便性を高めました。なお、いずれの取り組みも、県内公共図書館等の協力を得ながら進める必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

①来館者サービスの向上

豊富な蔵書を基盤に、企画展示、レファレンスサービス等を行い、来館者と資料を結ぶ積極的働きかけを行います。また、案内表示、サイン、検索端末の利用環境等の整備や、施設・設備の点検、修理に努めます。なお、利用者の自発的なマナー向上を、キャンペーン等を通して働きかけます。

【指標】 蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）：最終年度に 1.0以上

②ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進

誰にでも使いやすい利用環境の改善を進めるとともに、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進め、効果的なサービス展開を図ります。

【指標】 障害者向け資料貸出冊数：毎年度 6,000冊以上

③非来館型サービスの向上

全県域へのサービス提供の拡大のため、県内公共図書館等の協力を得ながら、非来館型サービスを充実します。遠隔地利用の利便性の周知を行い、利用の拡大を図るとともに、利用者登録が全県域に拡大する好循環へと結びつけます。

【指標】 インターネット予約貸出冊数：毎年度 個人貸出冊数の12%以上

○県民参加による図書館づくり

現状の成果と課題

④県民の声を聞くために、提案箱での意見の受付や、来館者アンケートを継続実施し、サービス改善につなげてきました。ただし、未利用者の意見聴取が課題として残ります。一方、岡山県立図書館を広く知っていただくため、マスコミを通じた情報提供や、来館者に向けてバックヤードツアー、図書館見学会等を実施するとともに、インターネットを活用して、ホームページやメールマガジンによる情報提供や、新規に、SNSによる情報提供を開始しました。なお、ホームページでは、多様化、高度化する各種図書館サービスを、利用者にわかりやすく提示する必要があります。

⑤多分野にわたる内容のイベントを、主題別6部門制を基盤に参加型イベントも含め多数開催してきました。また、様々な主体と連携するとともに、他機関の事業への積極的参画も行ってきました。今後とも、図書館サービスとの連動性を常に意識しながら企画、運営する必要があります。

⑥ボランティア（障害者利用支援ボランティア、児童サービス支援ボランティア、情報サービス支援ボランティア、メディア工房支援ボランティアの4種類）の受入を積極的に進めてきました。なお、ボランティアの資質向上を研修等によって図る必要があります。

⑦県民参加型の取り組みの一環として、郷土資料の網羅的な収集を目指す寄贈受入を行ってきました。また、郷土関係のデジタルコンテンツを募集し、郷土関係のデジタルアーカイブ機能を持つ郷土情報ネットワークに登録する郷土情報募集事業に取り組みました。今後とも、事業の趣旨の理解を得ながら進める必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

④公聴広報活動の推進

公聴活動については、既存の取り組みのほか、インターネットによるアンケートや県内公共図書館でのアンケート等を通して、非来館者や未利用者を含めたニーズを幅広くつかむように努めます。広報活動については、既存の取り組みのほか、県内公共図書館、博物館、美術館等の行事に合わせた利用広報や、関係機関への案内送付を行い、利用拡大を図ります。なお、有料施設について、県民の生涯学習活動に活用してもらえるよう、広報による利用拡大を図ります。

⑤図書館の魅力を伝えるイベントの開催

図書館の魅力を伝え、資料・情報の提供につながるイベントを、様々な主体とも連携し実施します。

⑥県民との協働の推進

ボランティアの受入と、研修による資質向上を図ります。また、読書グループや読書ボランティアの調査結果等を基に、地域における読書ボランティアの養成に際して、講師紹介や助言等による支援を行います。

⑦郷土資料の寄贈受入及び郷土情報募集事業の推進

県民の参加意識を高めることによって、取り組みを積極的に進め、価値ある郷土資料・情報の提供につなげます。

2 県域の中核となる図書館

すべての県民が身近な生活圏内で図書館を利用できるように全県域の図書館振興を目指し、県内公共図書館への支援の一層の充実を図るとともに、サービスを支える図書館職員の力量の向上に努めます。県域ネットワークを補完するため、国立国会図書館、都道府県立図書館等の県外諸機関とも連携してネットワークを形成します。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I 協力レファレンス件数 平成24～26年度実績平均：1,747件

○県内公共図書館の振興

現状の成果と課題

①全県域サービスの視点から、協力貸出しを最重要業務の一つと捉え推進するとともに、協力レファレンスの強化を図ってきました。また、小規模図書館等に対する長期一括貸出しや、読書グループ貸出しに取り組んできました。日常的な図書館運営に関する相談への対応においては、全自治体を対象に巡回相談事業を実施してきましたが、教育委員会等の関係機関とも緊密に連携しながら進める必要があります。

②図書館の動向を把握するため、県内公共図書館調査や、新規に、岡山県立図書館協力ニュースの発行等を行ってきました。今後とも、ニーズに合ったきめ細かい情報提供を行う必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

①県内公共図書館への支援の推進

自治体の財政難に伴う図書館資料費の削減が続く中で、既存の支援事業に引き続き取り組みます。このうち、対応する目標設定及び取り組みとして、「晴れの国おかやま生き生きプラン」に掲げられている指標「県民が公立図書館から借りた本の数」の目標達成のための統一イベントやキャンペーンを実施します。また、日常的な図書館運営に関する様々な相談に対応し、情報交換できる環境を整備します。その一環として、全自治体への巡回相談事業を継続して実施します。図書館のない自治体へは、図書館設置の働きかけを行うとともに、求めに応じて助言を行います。既設置自治体へは、地区館の設置等により、サービスの空白地帯の解消が進むように助言します。

【指標】県内公共図書館への協力貸出冊数：毎年度 4万冊以上

【指標】県内公立図書館の県民1人当たり個人貸出冊数：最終年度に 7.0冊以上

②図書館に関する調査とその公表の推進

定例の取り組みを継続するとともに、ニーズや重要性を見極めたきめ細かい調査を行い公表します。

○図書館職員の力量の向上

現状の成果と課題

③多様化、高度化する利用者ニーズに対応するため、図書館職員が専門的能力・知識等を習得する研

修を実施してきました。新規に、県内公共図書館が開催する研修に、岡山県立図書館職員を講師として派遣する講師派遣制度を立ち上げました。ただし、講師派遣要請において、特定分野にニーズが集中する傾向にあり、注目度合いは比較的低いが重要な分野についても注意喚起していく必要があります。

④岡山県立図書館においては、新規に、**研究グループ**※制度を立ち上げ、多様な分野の専門性の向上に取り組んできました。

サービス目標と具体的取り組み

③図書館職員研修の充実

研修についてはより実践的な内容とし、研修実施後、内容を各館に情報提供し情報共有できるよう配慮します。また、講師派遣制度の充実を図ります。

④岡山県立図書館職員の専門性の向上

県域の公共図書館の支援を行うという広い視野に立って取り組み、成果は講師派遣制度に活用します。

※研究グループ：岡山県立図書館内に設置した、チームで業務別の共同研究を行う職員研修組織。研修成果は、講師派遣及び業務改善に活用している。

○図書館ネットワークの拡充・強化

現状の成果と課題

⑤県域の図書館協力の基盤として、ネットワークに参加する県内図書館の蔵書を一括検索できる岡山県図書館横断検索システム、さらに相互貸借支援機能を持つ岡山県図書館間相互貸借システムと、物流ネットワークの資料搬送システムは定着しました。一層活用されるように利用環境を改善する必要があります。

⑥県外図書館との間では、相互貸借や、国立国会図書館総合目録ネットワーク、国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供等によって協力関係を維持するとともに、質・量の両側面で極めて高い貢献をしてきました。なお、ネットワークを形成するための新しい技術動向への対応等が必要です。

サービス目標と具体的取り組み

⑤県内図書館等とのネットワークの推進

県内公共図書館等と協力しながら進めるとともに、大学図書館等との間で、専門的な資料の相互貸借等を行い、連携の拡大を図ります。また、県域の広域ネットワークの構築、運営の支援に努めます。

⑥県外図書館等とのネットワークの推進

新しい技術動向に対応しつつ、全国的ネットワークの地域拠点機能を果たし、県外図書館との協力関係を維持します。

3 調査・研究センターとしての図書館

主題別6部門制の特長を生かし、多様化・専門化していく県民の知的ニーズに応えられる調査・研究支援機能の充実を図ります。県民の仕事や暮らし、地域の課題の解決に役立つ資料・情報、学習機会を提供します。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I レファレンス件数 平成24～26年度実績平均：69,248件

○主題別6部門制による調査・研究支援

現状の成果と課題
<p>①6部門の専門性をより深め、関係専門機関とも連携しながら、利用者の調査・研究を支援してきました。重点収集資料である交通文化資料について、コーナーをリニューアルし、特色あるサービスを提供してきました。今後とも、円滑で確実な利用者対応ができるよう、各部門の連絡・調整を進める必要があります。</p> <p>②レファレンスは、質的向上を図るとともに、レファレンスデータベースへの事例登録を進めてきました。課題として、レファレンスツールや二次資料について、各部門がさらに内容の充実したものを作成し、広くホームページ上にも公開して県民の調査・研究に役立てることが挙げられます。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>①主題別6部門の連携による調査・研究支援の充実</p> <p>高度なレファレンスに対応できる職員を配置して、各部門の専門性を維持するとともに、関係専門機関とも連携しながら、利用者の調査・研究を支援します。交通文化資料については、魅力ある企画展示を行ったり、二次資料を工夫したりして、利用の拡大を図ります。</p>
<p>②レファレンスの充実</p> <p>主題別6部門制に基づく専門性の高いレファレンスを行い、レファレンスデータベースへ登録するほか、レファレンスツールとしてのブックリスト、調べ方案内等の作成・更新に取り組み、館内のみならずホームページ上でも提供します。</p> <p>【指標】レファレンスデータベース登録数：毎年度 180件以上</p>

○課題解決支援機能の充実

現状の成果と課題
<p>③課題解決支援の中核に位置付けられるビジネス支援については、関係資料の積極的収集と提供を進めるとともに、ビジネスサポート等の二次資料の作成・配布等に取り組んできました。また、産業振興関係団体や県庁関係課等との連携を通して、創業・起業を中心とする連携講座、相談会等に取り組んできました。ただし、潜在的なニーズを持った未利用者へサービスを周知していくことが必要です。</p> <p>④県民生活により身近な、子育て・教育活動支援、行政支援、法情報提供、健康医療情報の提供等のサービスを、公共機関・企業・学校等と連携しつつ取り組んできました。二次資料の作成・配布等によって、利用者自らによる課題解決を促進するとともに、主催講座、連携講座、企画展示、連携展示等を通して当該機能を周知してきました。なお、社会環境の変化に伴う新たな課題や要請にも対応していけるようにすることが挙げられます。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>③ビジネス支援の充実</p>

創業・起業を考える人、キャリアアップを目指す人、就職を考える若者等に、豊富な蔵書を基盤とした支援を継続します。また、県内中小企業の業務改善を支援します。以上の取り組みを通して、「晴れの国おかやま生き生きプラン」・重点戦略Ⅱ・地域を支える産業の振興に寄与します。

【指標】連携セミナー受講者のうち創業した人数：毎年度 10人以上

④身近な課題解決支援の充実

ニーズを踏まえた課題解決支援を行い、図書館を身近な存在として認知してもらえるよう取り組みます。

4 デジタルネットワークに対応する図書館

デジタル情報の受発信基地を目指し、デジタル岡山大百科※の充実と活用を促進します。岡山県立図書館単独のサービスだけでなく、デジタルネットワークを活用することによって、外部の情報メディアの導入と利用促進を図ります。

※デジタル岡山大百科：岡山県立図書館がインターネット上に構築している電子図書館システム。岡山県図書館横断検索システム、郷土情報ネットワーク、レファレンスデータベースの3つのサービス機能から成る。

○デジタル岡山大百科の充実

現状の成果と課題

①郷土情報ネットワークにおいては、著作権に抵触しない郷土資料のデジタル化、関係機関のシステムとの連携、県民からデジタルコンテンツを募る郷土情報募集事業等により、デジタルコンテンツの拡充を図ってきました。今後とも、さらなるデジタルコンテンツの拡充と、サービスの周知による利用促進が必要です。

②レファレンスデータベースにおいては、県内公共図書館と連携しながら進めてきました。ただし、データベースの量的充実は十分とは言えず、事例の登録、提供の意義を認識しながら取り組む必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

①郷土情報ネットワークの充実と利用促進

郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積や、デジタル絵本のような特色あるコンテンツ形成に努めるとともに、活用方法を広報します。デジタル化においてはメディア工房支援ボランティアと連携します。

②レファレンスデータベースの充実

県内公共図書館等と連携しレファレンス事例の充実を図るとともに、図書館の代表的なサービス機能であるレファレンスを具体的に提示していきます。

【指標】レファレンスデータベース登録数：毎年度 180件以上【再掲】

○デジタルネットワークの活用

現状の成果と課題

③外部から導入して提供するデータベースサービス等として、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、歴史的音源の視聴サービス及び岡山県立図書館が契約した各種の有料データベース等があり、サービスの周知を行うとともに、情報サービス支援ボランティアによる情報検索支援サービス等も活用しながら進めてきました。今後とも一層の利用促進が必要です。

④新規に、サピエ図書館※の活用を開始し、ダウンロードやオンラインリクエストによって得られた録音データ等の提供を行っています。なお、平成28年4月施行の障害者差別解消法に県内公共図書館が対応できるように、ノウハウの提供や連携を進めていく必要があります。

⑤電子書籍サービスの導入について、これまでも検討してきましたが、現時点では導入効果が見込めず、導入するという結論には至っていません。

サービス目標と具体的取り組み

③外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用促進

直接来館することによってはじめて利用できる当該サービスを周知し、利用促進を図ります。

【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数：毎年度 900人以上

④サピエ図書館等の活用の推進

取り組みを一層進めるとともに、県内公共図書館へノウハウを提供しながら、全県域での障害者サービスを充実させます。

【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：毎年度 5,000点以上

⑤電子書籍サービスの導入等の検討

電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足、費用対効果の低さ等、外部環境が熟していないため実現していませんが、環境の変化を注意深く見極めつつ、引き続き検討していきます。なお、デジタルネットワークを活用した外部の情報メディアの導入を図っていく中で、アクセスコーナーやAVコーナーについて、今後の望ましい在り方を検討します。

※サピエ図書館：サピエは、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して、録音図書等を提供するネットワーク。

5 資料保存センターとしての図書館

将来にわたって県民の財産となる図書館資料を収集、整理、保存して後世へ継承するとともに、県域における有効な活用を図ります。また、県内公共図書館等からの移管資料の受入を行います。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I 新刊図書の購入冊数 平成24～26年度実績平均（1億2千万円に割り戻し）31,000冊

○資料の収集

現状の成果と課題

①全国トップクラスの資料購入費により、平成26年度までの重点整備期間には「新刊図書の70%収集」を概ね達成できました。このうち、新刊児童図書の全点収集、高齢者サービスとしての大活字図書の積極的収集を進めてきました。以上の取り組みの結果、蔵書冊数は全国平均を超え、全国第7位となりました。なお、資料費の削減について、もっとも重大な課題の一つと受け止め対策を検討してきましたが、新規に、

雑誌スポンサー制度を創設し、スポンサー獲得に努めてきました。

②郷土資料についてはこれまでも網羅的な収集を継続してきました。今後とも、岡山県関係資料の最後の抛り所に相応しい水準を維持する必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

①新刊図書の効率的な収集

県民及び県内図書館からの高度化、多様化する資料要求に応えられるように、新刊図書の効果的な収集と、効率的な予算執行に努めます。

②郷土資料の収集の促進

郷土資料の収集については、量的充実と合わせ、未所蔵資料の遡及収集に全力で取り組みます。購入や寄贈のほかに、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します。

【指標】郷土資料蔵書冊数：最終年度に 15万冊以上

○資料の保存

現状の成果と課題

③多様かつ大量の購入資料・寄贈資料及び県内公共図書館からの移管資料の受入、保存を進めてきました。なお、寄贈資料、移管資料の受入体制整備や、県内公共図書館における県域保存意識の定着を図る必要があります。

④長期保存の視点から、原資料の保存と利用のためのデジタル化を行い、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブに取り組んできました。今後とも、計画的、継続的に取り組んでいくことが必要です。

サービス目標と具体的取り組み

③県域の資料保存センター機能の充実

県域の資料保存センターとしての機能を果たすため、受入資料については原則として永年保存します。また、県内公共図書館等の移管資料の受入を行うとともに、寄贈資料の円滑な受入、保存に努めます。

④長期保存対策の推進

長期保存の優先度合いの高い郷土資料（a.貴重書の絵図、地図 b.県の行政資料 c.和装本のうち岡山との関係が深いもの）のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら行うとともに、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブを行い、保存と利用を両立させるよう努めます。

【指標】デジタル化した郷土資料点数；毎年度 10点以上

重点プログラム1 子ども読書プログラム

全県域の子どもの読書活動推進センターとしての機能を充実します。子どもの読書に関わる調査研究を支援するとともに、子どもへのサービスを充実します。また、子どもの一番身近な読書拠点である学校図書館を支援します。以上の取り組みを通して、「晴れの国おかやま生き生きプラン」・重点戦略Ⅰ・教育県岡

山の復活に寄与します。

○子ども読書活動推進センター機能の充実

現状の成果と課題

①児童図書研究室における新刊児童図書の全点収集、児童図書研究書の収集を基盤に、読書グループの調査や、関係者・関係機関への読書・資料に関する情報支援等に取り組んできました。今後とも、以上の機能や児童図書研究室の周知を行うことがより一層必要です。

②県内公共図書館や学校図書館関係職員、読書ボランティア等、子どもの読書に関わる大人を対象に研修を実施し、その内容をホームページ等によって広く情報提供してきました。また、読書ボランティア団体等についての情報の収集に努め、そのネットワーク化と、主体的な取り組みを支援してきました。なお、研修についてのきめ細かいニーズを把握する必要があります。

③子どもへのサービスについては、家族、保護者とも一体となった利用を念頭に置くとともに、児童サービス支援ボランティアと連携しながら提供してきました。なお、図書館利用が疎遠となりやすい中高生の利用促進に向けて、中学校、高等学校の学校図書館と連携しながら、取り組んでいく必要があります。また、変化の激しいこれからの社会において、子どもが郷土岡山や我が国の歴史・伝統・文化に触れること等によって、積極的に行動する高い志をはぐくむことが必要です。

サービス目標と具体的取り組み

①子どもの読書に関する調査・研究の推進

全点収集児童図書は、巡回展示や特別貸出し等によって、活用の促進を図ります。また、関係者や関係機関に対して、サービスの実態や取り組み等に関する様々な情報を、ホームページ等で提供します。

②子どもの読書に関わる研修・普及啓発活動の推進

研修の形態は、講義のみならず、事例発表、連絡会、交流会等の多様な形態を取り、その内容は実践的なものとします。また、読書ボランティア団体等の取り組みを引き続き支援します。

③子どもへのサービスの充実と郷土岡山を大切に作る心の育成

資料の充実を図るとともに、読み聞かせ、ストーリーテリング等の行事を、児童サービス支援ボランティアと連携しながら行います。保護者の読書相談にも対応します。中高生の利用促進については、ティーンズコーナーの運営や、中高生に必要とされるブックリスト、調べ方案内の作成、提供等を通して取り組むとともに、中学校、高等学校の学校図書館と連携しながら進めていきます。また、対面朗読室を活用した朗読サービスや、録音図書の提供等によって特別な支援を必要とする子どもの読書活動を支援します。さらに、子どもが郷土岡山を大切に思い、世界に視野を広げ、よりよい社会づくりに参画する心や態度を育成するための資料を企画展示する等のサービスを充実させます。

【指標】 読み聞かせ参加人数：最終年度に 3,000人以上

○学校図書館への支援

現状の成果と課題

④学校図書館への協力貸出しにおいては、全県域の県立学校及び私立学校等に対して、学校図書館支援システムと資料搬送システムを活用した協力貸出しと、新規に、テーマ別にセットした学校図書館支援用図書の利用を開始しました。ただし、利用の少ない館への働きかけを行うとともに、学校図書館支援用図書の利用の実態に即した内容整備を継続する必要があります。また、学校図書館担当職員向けに、各種研修を行ってきましたが、より実践的な内容とすることが必要です。

⑤学校図書館協議会等との連携を通して、学校図書館との協力体制の構築を進めてきました。今後とも、効果的な協力体制を確立していく必要があります。

サービス目標と具体的取り組み**④学校図書館への支援の推進**

学校図書館への協力貸出しに取り組むほか、学校図書館横断検索システムによって、学校図書館間の資料の相互利用を進めます。また、学校図書館担当職員（学校司書・司書教諭）等を対象とした専門的な研修を開催するとともに、研修の必要性に応じて職員を派遣します。なお、搬送実施校以外の市町村立学校図書館等への支援については、最寄りの市町村立図書館への搬送等によって行います。

【指標】学校図書館への協力貸出冊数：最終年度に 34,000冊以上

⑤学校図書館との協力体制の構築

学校図書館と効果的に連携・協力できるよう、学校図書館協議会等との連携協力を努めます。また、県内公共図書館と地域の学校図書館等とのネットワークの構築を支援します。

重点プログラム2 おかやま情報発信プログラム

岡山県に関する資料を網羅的に収集、保存します。収集した資料は、積極的にデジタル化を行い利用の促進を図ります。また、他機関との連携を一層進め、岡山県立図書館や岡山県の魅力ある情報を発信します。以上の情報発信力の強化を通して、「晴れの国おかやま生き活きプラン」・重点戦略Ⅲ・安心で豊かさが実感できる地域の創造に寄与します。

○郷土資料のデジタル化による情報発信**現状の成果と課題**

①岡山県関係資料の最後の拠り所として、郷土資料の網羅的な収集を継続してきました。また、二次資料の作成や企画展示等を通して利用を拡大し、岡山県に関する専門的な調査・研究を支援してきました。郷土資料の利用の促進については、二次資料作成や、企画展示等を通して行ってきました。今後とも、郷土資料の収集において、岡山県関係資料の最後の拠り所に相応しい水準に維持する必要があります。

②収集した郷土資料のうち必要なものに対して、メディア工房支援ボランティアと連携しながらデジタル化を行い、郷土情報ネットワークを通して広く情報発信してきました。なお、計画的、継続的な取り組みが必要です。

サービス目標と具体的取り組み
<p>①郷土資料の収集と利用の促進</p> <p>郷土資料の収集については、量的充実と合わせ、未所蔵資料の遡及収集に全力で取り組みます。収集方法については、購入や寄贈のほかに、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します（再掲）。さらに、記事索引等の二次資料作成や、人物、事象等に関する企画展示を通して利用を拡大し、岡山県に関する専門的な調査・研究を支援します。</p> <p>【指標】郷土資料蔵書冊数：最終年度に 15万冊以上【再掲】</p>
<p>②郷土資料のデジタル化の推進</p> <p>長期保存の優先度合いの高い郷土資料（a.貴重書の絵図、地図 b.県の行政資料 c.和装本のうち岡山との関係が深いもの）のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら行うとともに、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブを行い、保存と利用を両立させるよう努めます（再掲）。県内にとどまらず広く情報発信することに努めます。</p> <p>【指標】デジタル化した郷土資料点数；毎年度 10点以上【再掲】</p> <p>【指標】郷土情報ネットワークへのアクセス数：毎年度 20万件以上</p>

○他機関との連携による情報発信

現状の成果と課題
<p>③岡山県立図書館の魅力を、来館者やマスコミ等に向けて発信してきました。今後は、従来の枠組みにとらわれない様々な方法で、岡山県立図書館の資料や魅力を広く情報発信していくことが必要です。</p> <p>④岡山県の魅力を、県の関係部局、県立博物館、県立記録資料館等とともに、連携展示、イベント、郷土情報ネットワーク等を通して発信してきました。今後は、岡山県に関する多様な情報を、多様な手段で発信していく必要があります。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>③岡山県立図書館の魅力発信</p> <p>岡山県立図書館についての理解が進むように、企画展示、テーマ別リストの提供、イベント等を通して、所蔵する資料の紹介を継続的に行います。また、デジタル化した貴重資料等を印刷物やインターネットサイト等で公開し活用できるようにするとともに、民間企業にも素材として提供できる機会を設けます。さらに、マスコットキャラクター「ヨムヨム」のしおりやブックカバー等を作成して広く配布します。ホームページ上では、バーチャルバックヤードツアーを行います。</p>
<p>④他機関と連携した岡山県の魅力発信</p> <p>他機関と連携して岡山県の魅力を広く国内外に発信し、岡山県への愛着と誇りを醸成します。具体的には、岡山県と岡山商工会議所が実施する「晴れの国おかやま検定」に連携した展示等を行います。また、岡山カルチャーゾーン加盟各施設や岡山県観光連盟と連携したイベントを開催します。さらに、岡山県に関する観光パンフレットを収集し提供します。</p>

第3次中期サービス目標 サービス指標

	指標名	目標値
	基本指標：来館者数／個人貸出冊数／登録者数・登録率（県人口比）／来館者アンケート利用者満足度	
①	蔵書回転率 （貸出冊数÷蔵書冊数） 現況：H24：1.27 H25：1.18 H26：1.14	最終年度に 1.0以上
②	障害者向け資料貸出冊数（延べ資料数） ※障害者サービス限定の資料：デジター等に障害者を対象として録音(録画)された資料 現況：H24：4,617 H25：5,986 H26：6,150	毎年度 6,000冊以上
③	インターネット予約貸出比率 現況：H24：9.7% H25：10.5% H26：11.1%	毎年度 個人貸出冊数の12%以上
	基本指標：協力レファレンス件数	
④	県内公共図書館への協力貸出冊数 現況：H24：36,877冊 H25：36,710冊 H26：39,432冊	毎年度 4万冊以上
⑤	県内公立図書館の県民1人当たり個人貸出冊数 現況：H24：6.49冊 H25：6.32冊 H26：6.37冊	最終年度に 7.0冊以上
	基本指標：レファレンス件数	
⑥	レファレンスデータベース登録数 現況：H24：151件 H25：180件 H26：187件	毎年度 180件以上
⑦	連携セミナー受講者のうち創業した人数 ブレインキュベーションセミナー、岡山市企業家塾等の受講者のうち創業した人数 平成22～26年度平均13.8人／年	毎年度 10人以上
⑧	外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数 現況：H24：745人 H25：756人 H26：854人	毎年度 900人以上
⑨	サピエ図書館データのダウンロード点数 現況：H24：3,739点 H25：4,720点 H26：4,863点	毎年度 5,000点以上
	基本指標：新刊図書の新刊冊数	
⑩	郷土資料蔵書冊数 123,000冊+5,500冊×5年=150,500冊	最終年度に 15万冊以上
⑪	デジタル化した郷土資料点数	毎年度10点以上
⑫	読み聞かせ参加人数 （お話のへや） 現況：H24：2,898人 H25：2,505人 H26：2,999人	最終年度に 3,000人以上
⑬	学校図書館への協力貸出冊数 現況：H24：23,494冊 H25：33,410冊 H26：32,967冊	最終年度に 34,000冊以上
⑭	郷土情報ネットワークのアクセス数 現況：H24：176,168件 H25：184,309 H26：198,420件	毎年度 20万件以上

※レファレンスデータベース

岡山県立図書館が県内の公共図書館等と協同で構築している調べ物のためのデータベースであり、データをインターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援する。

※サピエ図書館

視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して、録音図書等を提供するネットワーク